

事務事業名		青少年体験学習		<input type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業																									
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間																										
	施策名	11 生涯学習の推進		区分																										
	基本事業名	02 学習機会の拡充		単年度繰返																										
根拠法令		-		※期間欄に開始年度を記入																										
所属	部課名	協働まちづくり部中央公民館		【開始年度】																										
	課長名	平野 辰雄		昭和61 年度～																										
	係名	中央公民館	電話 0192-26-3166	事務事業区分																										
	担当者	千葉 奈穂子	内線 432	E 一般																										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)																										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年中から中学校3年生と保護者を対象に学校や家庭では得難い体験活動の機会(年2回程度)を提供する。</li> <li>・主な業務は、①事業の企画②講師との交渉③事業計画の策定④事業の展開⑤事業の成果・課題の検証。</li> <li>・事業費は、講師謝金や旅費、委託料等に支出される。</li> <li>・英語スクールは、県の指導により、令和5年度から家庭教育学級に事業移管した。</li> </ul>				<table border="1"> <tr><td rowspan="10">総投入量 (千円)</td><td rowspan="5">事業費</td><td>財源内訳</td><td>国庫支出金</td><td></td></tr> <tr><td>都道府県支出金</td><td></td></tr> <tr><td>地方債</td><td></td></tr> <tr><td>その他</td><td></td></tr> <tr><td>一般財源</td><td></td></tr> <tr><td>事業費計(A)</td><td>0</td></tr> <tr><td rowspan="3">人件費</td><td>正規職員従事人数</td><td></td></tr> <tr><td>延べ業務時間</td><td></td></tr> <tr><td>人件費計(B)</td><td>0</td></tr> <tr><td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td><td>0</td></tr> </table>		総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金																											
		都道府県支出金																												
		地方債																												
		その他																												
		一般財源																												
	事業費計(A)	0																												
	人件費	正規職員従事人数																												
		延べ業務時間																												
		人件費計(B)	0																											
	トータルコスト(A)+(B)		0																											

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)												
<p>前年度実績(前年度に行った主な活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校4年生から中学校3年生とその保護者を対象に、三陸公民館でステンドグラス制作体験教室、年中から中学校3年生とその保護者を対象に、カメリアホールでドローンプログラミング体験教室を開催した。</li> </ul> <p>今年度計画(今年度に計画している主な活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季にステンドグラス制作体験教室、秋季に科学教室を開催する。</li> </ul>	<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ア</td><td>参加者数</td><td>人</td></tr> <tr><td>イ</td><td>講座定員に対する充足率(組・人)</td><td>%</td></tr> <tr><td>ウ</td><td></td><td></td></tr> </table>	名称		単位	ア	参加者数	人	イ	講座定員に対する充足率(組・人)	%	ウ		
名称		単位											
ア	参加者数	人											
イ	講座定員に対する充足率(組・人)	%											
ウ													
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学生及びその保護者を対象とする。</li> </ul>	<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>カ</td><td>市内の年中～中学校3年生の人数</td><td>人</td></tr> <tr><td>キ</td><td>市内の年中～小学校2年生の人数(令和4年度まで)</td><td>人</td></tr> <tr><td>ク</td><td></td><td></td></tr> </table>	名称		単位	カ	市内の年中～中学校3年生の人数	人	キ	市内の年中～小学校2年生の人数(令和4年度まで)	人	ク		
名称		単位											
カ	市内の年中～中学校3年生の人数	人											
キ	市内の年中～小学校2年生の人数(令和4年度まで)	人											
ク													
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動を通じて大船渡の子どもが自立心や達成感を深める機会やきっかけを提供する。また、普段触れる機会が少ない分野の体験機会を提供し、子どもたちの好奇心や未知の分野へ挑戦する意欲を育む。</li> </ul>	<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>サ</td><td>アンケートによる満足度の高評価の比率</td><td>%</td></tr> <tr><td>シ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ス</td><td></td><td></td></tr> </table>	名称		単位	サ	アンケートによる満足度の高評価の比率	%	シ			ス		
名称		単位											
サ	アンケートによる満足度の高評価の比率	%											
シ													
ス													
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来地域を担うであろう青少年に対する資質の涵養となる。</li> </ul>													

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	財源内訳	単位	年度						
				2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
		都道府県支出金	千円	65	142	142	125	125	125	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	110	72	72	63	63	63	
	事業費計(A)		千円	175	214	214	188	188	188	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	3	3	2	2	2	
		延べ業務時間	時間	205	300	300	200	200	200	
		人件費計(B)	千円	820	1,200	1,200	800	800	800	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	995	1,414	1,414	988	988	988	
⑤活動指標	ア	人	33	113	141	53	50	50		
	イ	%	83	84	123	101	80	80		
	ウ									
⑥対象指標	カ	人	2,188	2,150	2,502	2,426	2,400	2,400		
	キ	人	1161	923	864	-	-	-		
	ク									
⑦成果指標	サ	%	94	97	97	98	80	80		
	シ									
	ス									

事務事業ID	0871	事務事業名	青少年体験学習
--------	------	-------	---------

<b>(3) 事務事業の環境変化・住民意見等</b>	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 地域における子どもたちを中心とした活動を支援し、世代間の交流を図るとともに、自然や郷土に対する理解を促し、青少年の健全育成をはかるため昭和61年度から開始した。平成28年度より従来の青少年地域活動事業を改変し、青少年体験学習事業として体験活動に特化した事業形態になった。また、毎年夏に未就学児から小学生を対象とした気仙広域連合主催の「キッズサマースクールinけせん」が大船渡市と陸前高田市の間で交互に開催されるが、毎回希望者が多く、参加できない子供がいることから、その希望に少しでも応えるため、大船渡市独自の事業として平成30年度から英語スクールを開始した。	
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 事業名変更に伴い平成28年度より地域開催を廃止し、中央開催のみとなった。対象となる子どもたちの日々の活動はスポ少や部活、学習塾等で多忙であり、事業の実施時期や開催形式により一層の工夫が求められる。また、平成28年度より事業の成果や手法を評価する評価検証委員会が設置された。	
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 令和2年度の評価検証委員会で、評価項目「自主性の育成」について、評価指標の内容が自主性と結びつかないとの指摘があり、評価指標を検討するよう要望があったため、アンケートの質問内容を作成し直し、「自主性の育成」を測ることができるものに変更した。令和5年度の学校支援活動運営委員会で、委員より「大変魅力的な講座を実施している」との感想が出た。	

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつかか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	▽ 理由・内容 将来を担う青少年の健全育成は地域コミュニティの強化に必要な不可欠なものであり、当事業はその一助となっている。英語スクールは英語力の向上だけでなく、講師との交流を通じて国際理解・相互理解を図ることができ、次代を担う人材の育成に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	▽ 理由・内容 当市は子どもが豊かな自然体験の機会に恵まれる一方、先進的な分野や高度な文化的素養をもとにした体験をする機会において都市部に対し不利である。その不利を一律に各家庭の関心や努力で補うことは難しく、公民館等社会教育機関が実施することが妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	▽ 理由・内容 平成28年度より、持ち回りで市内2地域を対象としていた地域開催分を止め、中央開催のみとした。持ち回りのローテーションの期間が長く、機会の不公平が生じていたためである。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	▽ 理由・内容 「スタンドグラス制作体験学習」「ドローンプログラミング体験教室」を実施し、いずれの講座も、子どもと保護者双方の関心を得たことで定員を超過する応募が得られ、参加者の満足度も高かった。今後も新たな講座メニューを検討し、成果の向上につなげる必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	▽ 理由・内容 都市部に対し、コト・モノの絶対数が少ない地方において、子どもがまだ触れたことのない分野に関心を持ち挑戦する機会が減少する。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 支出の大半が講師謝金や旅費にあたるため、テーマ及び講師選定により事業費が左右される。しかし、内容により地域内で謝金・旅費の安価な講師がいない場合も多々あるため削減は難しい。また、実施回数削減も現状、評価検証委員会からは妥当とされている。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 既に地域開催分を削減済みのため事業としての削減余地は無く、中央開催のみのため地域への協力体制構築も必要性が薄い。英語スクールは、令和3年度から委託講師の人数を減らし、委託料の大幅削減を行っている。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	▽ 理由・内容 参加の機会を多くする工夫で参加者数を増やすことができれば、機会の公平性もより高まる。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							
2 改革改善(縮小・統合含む)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×	現状のとおり継続して取り組みを行うこととし、併せて、今後も時代の変化や子ども・保護者のニーズの把握に努める。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		●																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																									

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
2 改革改善(縮小・統合含む)	日頃体験できないことをメニューとして提供するために、どのような内容が望ましいかを検討し、参加促進を図る必要がある。併せて、ドローン体験スクールに代わる新たな講座等の実施について模索し、実施に向け取り組む。